

研究成果情報	園芸	2	野菜	栽培
新技術・情報名	なす「T-103」の促成栽培法		分類	①

1. 成果の内容

1) 技術、情報の内容及び特徴

なす「T-103」の促成栽培は、台木にヒラナスを使用し、1株2本仕立てとして設定夜温を12℃で管理すると、品質が低下しやすい1、2月の厳寒期の収量が多く上物率も向上する。

- (1) 「T-103」に使用する台木は、設定夜温が10℃ではヒラナスがトルバムに比べて収量、品質ともに優れる。
- (2) 仕立て法は、1株2本仕立てが4本仕立てに比べて上物率がやや低下するが、生育初期からの収量が多く、総収量も増加する。
- (3) 設定夜温は、台木にヒラナスを使用した場合、従来の夜温管理より2℃高く、12℃で管理を行うと品質が低下しやすい1、2月の厳寒期の収量が多く、上中物率も向上する。

2) 技術・情報の適応効果

「T-103」の促成栽培における、収量の増加と品質向上が可能となる。

3) 適用範囲

県下全域

4) 成果の利活用・普及指導上の留意点

- (1) 設定夜温を高める場合は、整枝や摘葉を徹底する。

2. 具体的データ

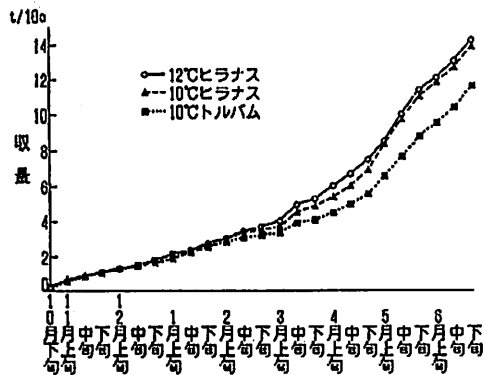


図1 仕立て本数と収量 (t/10a) (平成2年)

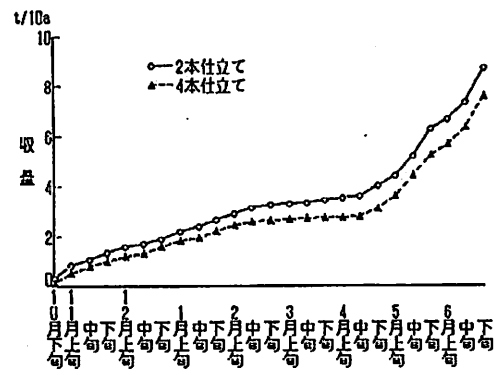


図2 台木、設定夜温の違いによる収量 (t/10a) (平成2年)

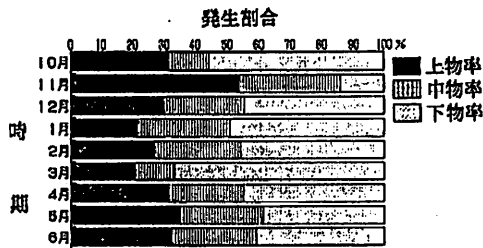


図3 2本仕立てでの時期別等級割合 (設定夜温10°C) (平成2年)

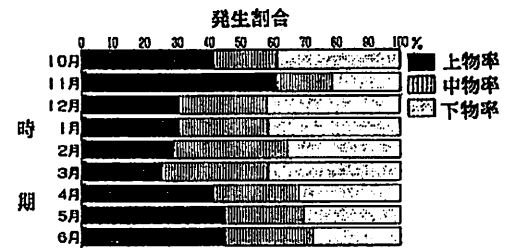


図5 ヒラナス台 設定夜温10°Cの時期別等級割合 (1株4本) (平成2年)

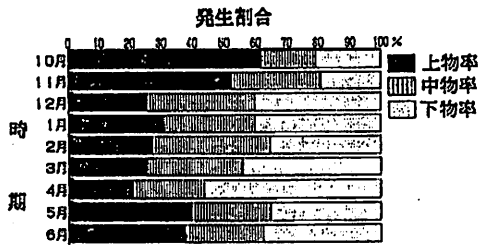


図4 4本仕立てでの時期別等級割合 (設定夜温12°C) (平成2年)

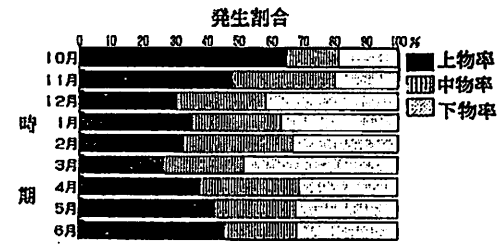


図6 ヒラナス台 設定夜温12°Cの時期別等級割合 (1株2本) (平成2年)

3. その他特記事項

担当部科室名：園芸研究所 野菜花き部 野菜栽培研究室

研究担当者名：小野剛士、山本幸彦、豆塚茂実

研究課題名：ナスの作型と整枝技術の確立

期間：平成2年～平成3年

予算区分：経常

既発表論文・資料名等：平成3年度 野菜試験研究成績概要集

取りまとめ責任者名：小野剛士